自民清風会　会長　柴田　泉　㊞　　平成２３年１１月１５日提出

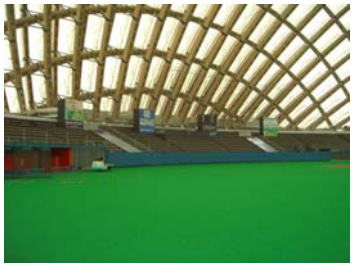
政 務 調 査 研 究 視 察 報 告 書

日程：平成２３年8月１８日（木）　～　8月２０日（土）

８月１８日　秋田市

「中町一丁目地区市街地再開発事業について」

８月１９日　大館市：「溶融スラグ製品化について」



８月２０日

青森市：「観光文化施設について」

視察参加者：　近藤隆志、小野政明、田口正夫　安形光征、梅村順一
吉口　二郎、加藤義幸

報告者：吉口　二郎

研　究　視　察　報　告　書

視　察　日	平成２３年８月１８日（木）
視 察 内 容	秋田市：中通一丁目地区市街地再開発事業について
視　察　者	近藤隆志、小野政明、田口正夫　安形光政、梅村順一、加藤義幸、吉口二郎

秋田市の概要：　秋田市は、県のほぼ中央に位置し、東に出羽山地、西に日本海が広がております。古くからの米どころ・酒造地として名高く、東北３代まつりの一つである「秋田竿燈まつり」でも知られる。市制施行は明治 22 年 4 月 1 日、平成 9 年 4 月には「中核市」となり、人口約 31 万人、面積：905.67k ㎡。

＜中通一丁目地区市街地再開発事業＞

＊再開発事業区域の概要とこれまでの経緯

本事業区域は、秋田市中心市街地活性化計画に定める区域の中央に位置し、かつては商業地として多くの集客があり賑わいを見せていたが、郊外への大型商業施設の進出や平成 10 年の日本赤十字病院移転などにより、中心市街地の空洞化が進行し、老朽化の進む既存建物への対応と合わせ大規模未利用地の活用が大きな課題となっていました。

平成 21 年 2 月、「広く県民および市民による賑わいと多世代交流の増進を図る」ことを事業目標として、「中通一丁目地区市街地再開発組合」設立が認可され、平成 22 年 8 月の権利交換計画認可を経て、同年 9 月より既存建物の解体工事に着手し、同年 12 月の建設工事の着手に至ったものであり、平成 24 年 7 月の施設完成を目指すものであります。

＊事業計画の概要

中通地区は、中心市街地の重点事業区域に位置付けられていることから、「千秋公園と一体となった街なかオアシス」を開発コンセプトに、市街地再開発事業により文化と交流の拠点整備をするものである。本事業では、（仮称）にぎわい交流館および広場、県立美術館、商業施設、共同住宅、駐車場が整備される計画となっている。

＜施設内容＞

- **にぎわい交流館（秋田市）地下 1 階、地上 4 階建、約 5,200 ㎡。**
- **広場（秋田市）　約 2,710 ㎡。**
- **県立美術館（秋田県）地下 1 階、地上 3 階建、約 3,700 ㎡。**
- **商業施設（民間）地上 1 階、2 階の一部、約 3,700 ㎡。**
- **駐車場（秋田市）2～5 階・屋上　駐車台数約 500 台。**
- **共同住宅棟　13 階建（民間）**
  1 階：商業施設、2～3 階：賃貸住宅、4～9 階：ケアハウス、10 階～13 階：分譲住宅。

〔感想・岡崎市への反映〕

秋田市では、平成 10 年の「まちづくり三法」の制定を契機に、様々な賑わい創出施策を展開しており、政府によって中心市街地における都市機能の増進および経済活力の向上を総合的かつ一体的に推進する施策がより明確に位置付けられたことを受け、これまでの取り組みを検証し、抱える課題等を明らかにした上で、秋田市の中心市街地が再び県都の顔として、市民に愛され、賑わいのある場所となるよう、中心市街地活性化基本計画が作成され、中心市街地再生と活性化に資する事業が、国の支援制度を活用し実施されております。

本市おいても、康生地区市街地再生を進めるにあたり、岡崎の特色を活かし個性的で魅力あるまちづくりが推進され、交流人口と定住人口の増加が図られ賑わいのある場所とするためにも、秋田市の取組は、参考にすべき点が多くあると感じました。

会派会長：柴田　泉　㊞

政務調査研究視察　報告書

報告者：加藤　義幸

視　察　日	平成 23 年 8 月 19 日（金）
視 察 内 容	溶融スラグ製品化について
視　察　者	近藤　隆志、小野政明、安形光征、田口正夫　梅村順一、吉口二郎、加藤義幸

《大館市の概要》

佐竹藩の城下町。県の北東部、青森市・盛岡市・秋田市の 3 県庁所在地からほぼ等距離に位置する交通の要衝。気温の年較差が大きい内陸性盆地型気候。きりたんぽが本場の米どころ。秋田杉の産地で古くから製材業が盛ん。花岡鉱山の隆盛により産業のまちとして発展。市街地は南北 2 つの商業圏を形成。

面積 913.70k ㎡、人口 42,405 人(平成 23 年 4 月 1 日現在。

《溶融スラグ製品化事業》

1.目的

大館クリーンセンターから排出される溶融スラグは、最終処分場へ搬出し、埋立てされていた。

しかし、環境保全の観点からは、資源の有効活用と、最終処分場不足の解消のため、溶融スラグを有効活用することが望まれていた。

本事業では、大館クリーンセンターから排出される溶融スラグを磨砕・整粒して建設用骨材として販売する民間事業を創設（委託）し、大館市発注工事及び一般建設工事用資材として利用することにより、循環型社会の形成と新規環境リサイクル事業創出による地域経済の活性化に寄与することを目的とした。

2.事業対象物

大館クリーンセンターから排出される固形物。

＊溶融スラグ：本事業により創設される新規リサイクル事業者に処理費を支払い、磨砕・整粒処理した後、建設用骨材として活用可能な製品スラグとして販売。

＊磁選メタル：スクラップとして処理。

＊溶融飛灰：Pb・Cd・As・Hg などの重金属は、沸点が低いため排ガスへの移行率が高く、集塵機で補修された溶融飛灰に含まれるため、薬剤処理により安定処理した後に、処分費を支払い最終処分場で埋立て処理。

3.効果

スラグ製品化手数料を従来の溶融スラグ埋立て処分費より安くすること、製品スラグの販売価格を従来の建設用骨材の価格を下げることにより、双方に経済的メリットも生まれている。また、なにより埋立て量を減少させたことにより最終処分場の延命化、市民に対する環境保全の意識高揚の啓発にも繋がっている。

〔感想・岡崎市への反映〕

大館市ではこの事業の他にも、低炭素社会に向けた取り組みとして、「化石燃料から再生可能エネルギーへの転換」として、公共施設へのペレットストーブやペレットボイラーの導入を推進してきている。結果として、平成 21 年度末の病院・教育施設を除いた公共施設の化石燃料の使用量は、平成 17 年度比で 81％の削減を図っている。

本市においても、溶融スラグの再利用は行っているが、低炭素社会に向けた新たな取り組みも引き続き検討するべきと考える。額田地方を中心とした、森林資源の保護・有効活用の観点からもペレット材の導入の可否について、研究を重ねる必要がある。

平成23年 11 月5日提出

政務調査研究視察　報告書

視　察　日	平成23年8月18日(木)･19日(金)･20日(土)
視　察　先	秋田県秋田市と大館市、青森県青森市
視 察 内 容	「秋田市街地再開発」と「大館市の溶融スラグ利用」、**「青森市の文化観光施設」**について
視　察　者	近藤隆志、小野政明、安形光征、田口正夫　梅村順一、吉口二郎、加藤義幸

第 3 日目　8月20日　青森市文化観光施設「ねぶたの家　ワ･ラッセ」　報告者：梅村順一

青森県青森市

1　青森市の概要

人口は、約30万人　世帯数は、13万3000世帯　面積824k㎡。地名の由来は、漁師達が帰港の目印とした小高い森を「青森」と呼んだことによる。県のほぼ中央に位置する交通や行政経済等の中心都市。本州と北海道を結ぶ結節点で、青函交流圏の中核都市。八甲田連峰や陸奥湾等の豊かな自然に恵まれ、青森ねぶた祭り、縄文集落跡三内丸山遺跡が知られる。06年10月に県内初の中核都市に移行した。

2　施設建設の経緯

東北新幹線の新青森駅開業による効果を高めるためには、中心市街地への誘客対策が必要である。平成14年から青森駅周辺の街づくり構想に取り組み、平成18年にねぶたを核とした文化交流施設と青森駅前広場のリニューアルを基本的な整備計画とした。

整備コンセプトは、①新幹線開業を契機とした中心市街地の活性化、②青森市が世界に誇る「ねぶた祭」の保存と伝承の拠点施設。

期待する効果は、①地域住民と来訪者との交流人口の増大　②中心市街地地区への誘客地区内の回遊性の向上　③青森ねぶた祭の保存と伝承

3　施設の概要

＜施設名称＞青森市文化観光交流施設
（愛称）「ねぶたの家　ワ･ラッセ」

※「ワ･ラッセ」には、掛け声ラッセラーに「笑い」や、人との「和」、市民との「環」等の思いが込められている。

＜構造＞鉄骨造り、地上3階地下1階
（一般開放部分は1･2階）

＜敷地面積＞1万3千㎡、＜建築面積＞4340㎡、
＜延床面積＞6700㎡

＜駐車場＞大型5台、普通120台、身障者用3台

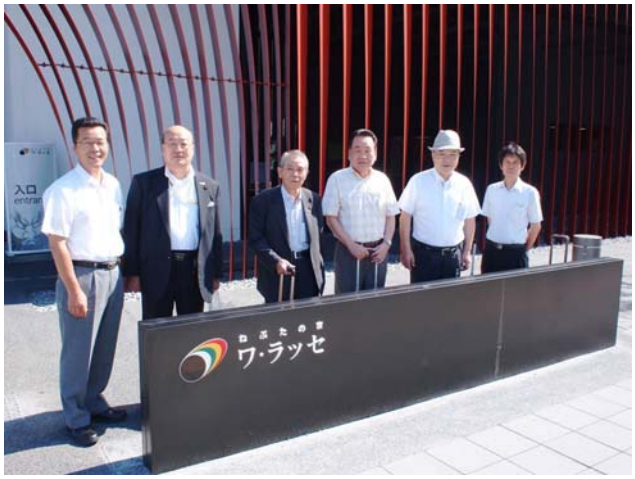
＜事業費＞約50億（まちづくり交付金20億、
合併特例債28億、その他）

＜詳細＞調査設計 1.6 億、用地補償 16.7 億、
本体工事 27.7 億、展示他 3.6 億

＜開館時間＞展示 9～19 時、レストラン 10～20 時、貸室 9～22 時

＜休館日＞12 月 31 日と元旦

＜管理運営＞指定管理者は、社団法人青森観光コンベンション協会。管理期間は、平成 22 年 10 月 30 日から平成 27 年 3 月 31 日。スタッフは 30 名（社員 8 名パート 22 名）。館長、副館長、施設部長、管理課長、社員 4 名、パート 22 名（2 交代制常時 6 名配置）。利用料金は、指定管理者に収受させ、一部不足分を市が指定管理料として支出する。



4 利用者の反応

「ねぶたホール・歴史コーナー」の入場者数

年度	月	月次累計	年度累計	オープン累計
22年度	1月	31，833	31，833	31，833
	2月	25，133	56，966	56，966
	3月	9，872	66，838	66，838
23年度	4月	16，615	16，615	83，453
	5月	23，364	39，979	106，817
	6月	27，472	67，451	134，289
	7月	35，593	103，044	169，882
合　計		169，882	――	**169，882**

入場者数を収支計画の見込み入館者数と比較すると、平成22年度は3ヶ月間で5万人の見込みが、66838人の実績。23年度は、年間20万人の見込みが、4か月で10万人を達成している。これらを見ても駅周辺整備も含め効果が表れているといえる。視察の中では、来訪者の意見等の集約がなされておらず不明である。

青森市

〔感想・岡崎市への反映〕

JR青森駅から徒歩1分、駅に隣接したおしゃれな商業施設の装いだ。エンジ色の長い板がひねりを入れながら周囲を囲いその手前の角にぽっかりと穴が開けられ、私たちを迎えるエントランスとなる。カナダ人が設計をしたモダン建築であり、外からは「文化観光交流施設ねぶたの家」とは想像できないデザインである。館長が初めに説明があったように案内表示が控目で、開館前に500万円をかけて表示板の改修をしたことがうなづけた。デザイン優先の施設は展示にも表れているが、それがまた新鮮で初めての来訪者を飽きさせない工夫がしてあった。2階への導線は和の空間をイメージさせ、ミニねぶたが私たちを迎えてくれる。資料コーナーには、タッチパネル式のパソコンが配置され自由にねぶたの歴史を探索できる。そしていよいよ入館となる。巨大ねぶた製作費500万円、ハネト集団やお囃子集団、ねぶたの引き回し手等含めると300名からのグループが6日間ねぶた祭りを盛りたてる。費用総額2000万円。この集団が6基、町じゅうを練り歩くのだそうだ。圧巻である。施設の具体的な運営内容について説明を受けた。伝統文化を大切にする心を感じる。年間を通じて世界に誇るねぶた祭りを紹介できる施設の完成は、地域の活性化に寄与するであろう。入口が海側の左奥にあると人の動きが良くなると感じたのは私だけだろうか。